

図書紹介

真保潤一郎・高橋保『東南アジアの価値体系3・ベトナム』現代アジア出版会、1971、339 pp.

本書は東京外国語大学のアジア・アフリカ言語文化研究所における共同研究の成果刊行物である。著者真保氏は高崎経済大学教授でベトナム現代史が専門、また高橋氏はアジア経済研究所の主任調査研究員で、東南アジア史、とくにインドシナ諸国の近・現代史の専門家である。

さて本書は2篇より成る。第1篇「ベトナムにおける農村社会の変動過程と価値体系」は本書の主篇をなし、高橋氏が執筆した。フランスの植民地支配下に入る以前から植民地時代を経て、独立後の今日に至るまでの間におけるベトナム農村の変貌と農民層の価値観の変化を時代を追って考察したもので、3章に分かれる。

まず第1章「ベトナムの伝統的村落社会」では、19世紀阮朝治下のベトナム農村と農民層の価値観を考察した。著者によれば、当時のベトナム農村は強固な自治的性格を有する村落共同体で、内部においては階層分化がかなり進捗しつつあり、そこに住む農民の価値観は、日常生活では衣食住の充足、富と名誉の獲得を重視し、社会的には家族や村に対する忠誠を重んじたが、半面国家に対する忠誠はあまり重んじなかったという。次に第2章「西欧的価値体系の導入とベトナム農民の価値観」では、フランスの植民地支配と西欧的価値観の導入によるベトナム社会の変容の中における農村と農民層の価値観の変化に重点をおいて論述し、農民層はフランス支配によって強く影響を受けたものの、なお伝統的な価値体系は多くの面においてこれを保持したとする。さらに第3章「新しい農村社会と価値観の形成」では、独立後インドシナ戦争・ベトナム戦争を経過した今日までの間における南北ベトナムの農村および農民層の価値観の変化について述べ、北ベトナムでは新しい農村が形成され、社会主義的人間の形成をめざすホー・チ・ミンの指導により農民層に新しい価値

観が育成されたが、南ベトナムでは混乱がつづき、一般に価値観の分裂が見られるものの、農民層の間ではなお伝統的価値観が保持されていると説く。

なお第2篇「社会主義への道—近代化=社会主義的人間変革」は真保氏が執筆し、独立後の北ベトナムにおける社会変革とそれに伴う価値転換がどのようなものであるかを5章に分けて論述しているが、これは要するに前篇第3章の一部を専門の立場から補説詳述したものである。

以上本書の内容を簡単に紹介したが、従来のベトナム研究に欠けていた価値体系の歴史的解明を行なった点で特筆すべき労作だといえる。なお著者自身の現地調査の成果も大いにとり入れていて興味がある。ただこの国の過去における中国との関係からみて中国的価値観の影響についてもう少し詳しい説明がしてほしいかった。それはともあれ、本書はベトナムに関心をもつ者の必読の書であると言える。

(藤原利一郎・京都女子大)

Howard Palfrey Jones. *Indonesia: The Possible Dream*. New York: Harcoure Brace Jovanovich Inc., 1971. xx+473 pp.

インドネシアに関しての近頃の出版物の中でこれほど面白く読んだものはない。著者ジョーンズ氏は、1954年～55年の1年間 U.S. AID の Director としてジャカルタに勤務したあと1958年にアメリカの大使に任命され、1965年5月まで7年半にわたってジャカルタに在勤した。その間、非常に複雑なアメリカインドネシア関係を現地で担当し、またスカルノときわめて親しい交際を続けた。有名なキャンディ・アダムスのスカルノ伝記も著者の勧奨によって出来あがったものである。

インドネシアを離任後、ハワイ大学の East-West Center の Chancellor を1968年までつとめたが、そのあとスタンフォード大学の Hoover Institute on War, Revolution and Peace において senior re-